

わが街で暮らす

諏訪市地域医療・介護連携推進センター

ライフドアすわの取り組み

地域包括ケアシステムを支える人々

48

諏訪市社会福祉協議会とは

協議会とは

諏訪市社会福祉協議会(社協)は、昭和35年5月に「地域の誰もが安心して心豊かに暮らすことができるまちづくり」を住民の皆さんと共に進める民間の社会福祉法人として設立されました。



解決を目指す場が「社協」です。

市民の皆さんの日常生活における困りごとや地域が抱える福祉課題(思い)をそこにお住まいの方々と共に考え、話し合っ、相談活動を通じ

また、社協には生活支援コーディネーター(地域支え合い推進員)を配置しており、地域における高齢者の生活支援や介護予防に関する取り組み

コロナ禍でも出来る住民参加

みや した かず あき
社会福祉法人 諏訪市社会福祉協議会 会長 宮下 和昭

みを推進しています。高齢者の生活を支える切れ目のない一体的な支援のしくみを構築するため、平成29年度に、諏訪市医師会・諏訪赤十字病院と共同して誕生した「ライフドアすわ」にも所属して連携を図りながら事業を進めています。

現在、コーディネーターは「諏訪市暮らしのお役立ちガイド」の作成、「すわっこいきいき体操」の推進、地区の集まりやサロンなどさまざまな会合に出席して住民や専門職の皆さんと意見交換を行って「顔の見える関係づくり」に奔走しています。

コロナ禍の令和3年11月には、群馬大学の内田陽子先生による「地域で認知症の方を支える」をテーマに認知症予防・啓発講演会が「ライフド



認知症予防・啓発講演会で講師の話を聞く参加者たち=諏訪市豊田の有賀公民館

理解を深めていただくという思いから「やってみよう」となったわけでありませう。開催が昼間の時間帯1時半から3時ということもあり、足元の明るいうちで、講演時間が1時間半であることも功を奏して、公民館の大広間にソーシャルディスプレイをとり、ゆったりと聴講し現場からの身に迫る質問もあるなど、初めてにしては良かったのではないかと思っております。

アすわ」を拠点にオンライン配信で開催され、いきいき元気館と有賀公民館では地域住民の方が共同聴講しました。有賀公民館での、ライフド

による認知症予防・啓発講演会の開催は事務局にとってもまた有賀区にとっても初めてのことであり、有賀区の小泉区長はじめ区役員の皆さんの協力のもと約20人の有賀区民が出席していただきました。これも、旧村部にお住まいの方々にも認知症についての

今後、実施しての感想は、今後もセミナーとか講演会等は街中だけの開催でなく、オンライン配信であれば村部でも著名な方々の有益なお話が聞け、顔が見えることが実証できました。このことは、ライフドアの啓発にも活用できる見通しがあったことも収穫でありました。

これからも、地域包括ケア等の充実に積極的に取り組んでまいります。(毎月第2日曜日掲載)